

## ・海外感染症流行情報 2023 年 6 月

### (1) 全世界: 新型コロナウイルス流行状況

6 月は世界的に新型コロナウイルスの感染者数が減少しています (WHO Corona virus disease 23-6-23)。冬を迎えている南半球でも顕著な感染者数の増加はみられていません。検出されているウイルスの種類は、オミクロン株の亜型である XBB が大多数を占めており、とくに XBB.1.16 が増加傾向にあります。日本では 6 月になり感染者数が全国的に緩やかに増加し、とくに沖縄県での感染者が増えていきます (厚生労働省 23-6-23)。なお、今年の秋のワクチン接種として、欧米諸国や日本では現在流行中の XBB 型を含むワクチンの使用を決めました (第 47 回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 23-6-16)。

### (2) 全世界: インフルエンザの流行状況

6 月は冬を迎えた南半球の温帯地域でインフルエンザの流行が拡大しています (WHO Influenza Update 23-6-12)。オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ、チリなどでインフルエンザの患者数が増加しており、A(H1N1)型の検出が増えています。一方、北半球での流行はほぼ収束しました。

### (3) アジア: 東南アジアでのデング熱流行状況

東南アジア各国でデング熱患者が増加しています (WHO 西太平洋 23-6-8)。マレーシアでは 4 万人以上の患者が発生しており、昨年の 2 倍以上の数になっています。フィリピン、ベトナム、シンガポールでも患者数は増えていますが、今年は昨年並みか、それよりも少ない数で推移しています。東南アジアではこれから蚊の増える雨季になるため、十分な注意が必要です。

### (4) アジア: マレーシアでサルマリアの患者が増加

マレーシアのサバ州で、今年になりサルマリアの患者数が増加しています (ProMED 23-6-14)。今年 5 月までに同州で確認されたマリア患者は 840 人で、このうち 816 人がサルマリアの感染でした。サルマリアは最近、東南アジアでヒト感染例が数多く報告されており、周期的な発熱をきたしますが重症化は少ないとされています。マレーシアのサバ州では奥地への開発が進み、サルとの接触が増えたことが原因と考えられています。

**(5) アフリカ: タンザニア、赤道ギニアでマールブルグ熱流行が収束**

WHO はタンザニアと赤道ギニアで発生していたマールブルグ熱の流行が終息したことを発表しました (WHO 23-6-2, 8)。タンザニアでは 9 人、赤道ギニアでは 40 人の患者(疑いを含む)が発生し、死亡者はタンザニアで 6 人、赤道ギニアで 35 人となっています。

**(6) ヨーロッパ: 英国で鳥インフルエンザ H5N1 の患者発生**

英国で鳥インフルエンザ A(H5N1) 型の感染者が 2 人発生しました (WHO 22-5-30)。いずれも鳥インフルエンザに感染したニワトリの処理を行っていた人で、症状は有りませんでした。昨年も感染したニワトリの処理を行っていた人の感染が、英国で 1 人、米国で 1 人、スペインで 2 人報告されており (WHO 22-1-14 ,5-6, 11-3)、いずれも無症状か軽い症状でした。一方、アジアなどで家禽から A(H5N1) 型に感染するケースでは、重症化することが多くなっています。

**(7) 南米: ブラジル・サンパウロ州で黄熱患者発生**

ブラジルのサンパウロ州で 2 年ぶりに黄熱患者が 4 人発生しました (ProMED 23-5-29)。このうち 2 人は死亡しています。ブラジルでは最近、黄熱流行地域が拡大しており、同国に滞在する場合は黄熱ワクチンの接種を受けておくことを強く推奨します。

**(8) 南米: ブラジルで豚インフルエンザの患者が発生**

ブラジル南部のパラナ州で、ブタ由来の A(H1N1) 型インフルエンザウイルスの感染者が発生しました (WHO 23-6-16)。感染者は 40 歳代の基礎疾患のある女性で、肺炎などを起こして死亡しました。この女性はブタとの直接の接触は有りませんでしたが、養豚場の近くに住んでいたことが明らかになっています。なお、濃厚接触者に感染例は確認されていません。